

# 南の風

—第3号—

色とりどりの紫陽花が、きれいに花を咲かせています。暑さは日々増していき、本格的な夏の季節もすぐそこまで来ているようです。新型コロナウイルス感染対策に加えて、熱中症対策もしっかり行いながら、子どもたちと安全に楽しく学習していきたいと思えます。

今年度、広報誌「南の風」では、病気の子どもへの教育的支援という観点で、テーマを決めて毎月掲載していく予定です。今月は、「病弱教育とは」です。また、各学部の授業の様子も引き続き毎月ご紹介していきます。

## 病弱教育とは

「病弱教育」という言葉を聞いてどのようなイメージを持たれるでしょうか。「院内学級」のように入院している児童・生徒が学ぶ場や、そこで行われている授業などをイメージされるのではないのでしょうか。本校は病院内にある病弱特別支援学校です。神奈川県内には特別支援学校が公立私立合わせて52校あります。そのうち病弱特別支援学校は3校です。「病弱教育」とは、病弱特別支援学校で行われる教育のみを指すものではありません。文部科学省の「教育支援資料」によれば、「心身の病気のため継続的又は繰り返し医療又は生活規制（生活の管理）を必要とする」「病弱」の子ども、そして「病気ではないが不調な状態が続く、病気にかかりやすいなどのため、継続して生活規制を必要とする」「身体虚弱」の子どもに対して行われる教育を「病弱教育」という、とあります。病弱特別支援学校のほかにも、小中学校の病弱特別学級を病院内に設置したり、小中学校内に病弱特別支援学級が設置されていたり、特別支援学校の教員が病院に行って授業を行ったりするなど、様々な形で「病弱教育」が行われています。ここで学ぶ子どもたちは、病気の治療だけでなく、学習への不安や生活に規制があることへのストレスを抱えています。「病弱教育」はそのような子どもたちの心身の状態を踏まえて行われます。子どもたちに心身の状態に応じた「学び」が保障され、制限のある中でも、学校生活を通じて「わかる」「できる」そして社会や環境に「かかわる」体験を積むことで、自信を回復したり、自信をさらに深めたりすることが「病弱教育」大きな役割なのです。

副校長 横田 寿光

## 学校生活 小学部

3年生のつなぐ授業を紹介します。教室(1組)と病棟(2組)を中継しながら国語の「音読会」を行いました。題材は『きつつきの商売』という物語です。登場人物の気持ちや自然の様子を想像しながら読むことを目標に、音読の練習を重ねました。発表する相手がいることで、子どもたちはより意欲をもって音読練習に取り組むことができました。当日は、相手に伝わるように声の大きさや読む速さを工夫しながら自信をもって発表することができました。授業の後半は、親睦を深めるためレクリエーションを行いました。

また、算数の「わり算」の授業ではオリジナル問題を作り、つなぐ授業をとおして互いに問題を出し合い、等分除・包含除の違いを共に考え学ぶことができました。

1組の教室 (テレビ画面)



## 7月行事予定

- |  |                                     |
|--|-------------------------------------|
| 2日 歯科指導<br>(小学部1組 13:15~13:55)                           | 15日 健康教育「歯科講話」<br>(中学部 13:00~13:45) |
| 5日 個人面談期間(小学部1組 ~9日)<br>個人面談期間(小学部2組 ~16日)               | 16日 スポーツ大会(中学部 9:55~11:40)          |
| 7日 環境衛生検査(10:30)<br>個人面談期間(中学部 ~16日)                     | 19日 午前日課<br>20日 午前日課<br>終業式         |
| 14日 健康教育「薬」<br>(小学部1組 10:50~11:35)<br>歯科指導(小学部2組 13:50~) | 21日 夏季休業(~8/31)                     |

横浜南養護学校 ホームページ

<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/y-minami-sh/>